

# 「こども△トラス」 報告書

## △日時

2011年10月1日(土)：WS 2日(日)：前日のWS作品を展示

## △参加人数

32人

## △内容

1日目：



### 【準備】

- ・ 駆体組み立て 正二十面体×2  
正四面体 ×2
- ・ 小道具準備/打ち合わせ など



### 【受付】

受付の際に色のついた布を渡し8人程度のグループ分けを行う



### 【説明】

プレゼンボードを使い、トラスの強度の強さや装飾と素材の話をお子たちに説明



### 【駆体作り】

各グループに分かれて、15本/mの布をはさみやペンや布やモールを使って自由に装飾する



### 【装飾作り】

布をはさみやペンや布やモールを使って自由に装飾する



### 【駆体に取り付け】

装飾した布を駆体に取り付け空間を作っていく



### 【体験】

完成した様々な空間を実際に入って体験する



### 【発表】

子供たちが全員、がんばったところや工夫した点を発表

2日目：



### 【作品の展示】



### 【プロセスを写真で展示】



### 【興味を持った子とミニWS】

## △感想

**島矢愛子**：進行具合は案外気にならず、それよりもこどもに説明するときの言い方が難しいと感じました。今回は教育の側面を持つのであまり作るだけになってしまうのを避けるようにしたいのですが、やはり村上先生のおっしゃるよう一回で完成ではないのでもう一度出来たらと個人的には思っています。でも、2日目は子どもと直接接する時間がとれて、同じ布を与えても色んなことを表現してくれるので面白かったです。実はずっとこどもに対する苦手意識があったので。

**田部直美**：前日まではかなりドタバタで、うまくいくのかなと心配になった時もありましたが、中田さんを始めコデザの方々のおかげで大成功で終わったと感じています。具体的にはこどもが楽しんでくれるのかとても心配だったのですが、次から次へとアイデアが浮かんで、楽しんでる姿をみて安心しました。私はあかチームで、小さい正20面体を作りました。正20面体はパイプにヒモを通したり、地味な作業が多いのでこどもが飽きてしまわないかと心配になったのですが、真剣にそして楽しんで作ってくれて安心しました。ただ、私の中ではWSを通して知らないこども同士が仲良くなってほしいという気持ちがあったのですが、それはかなわなかったのが、次回への課題点だと感じました。リーダーとこどもとの関係は良い関係が作れたのではないかと思います。こどもとなれているコデザの方々がこどもの心をつかんでいくのを見て、真似するような形で私も仲良くなる事ができました。WSが終わってみて純粋にモノ作りを楽しむこどもを見て、私もモノ作りに関して初心を思い出す事ができて考えていた以上に収穫がありました。

**渋谷舞**：子供達の行動範囲は自由で落ちつきのない子がいたり、お絵描きに夢中な子、様々な子がいたので、個々の自由な発想を生かせるWSになったのではないかと思います。1日目の子供達への配慮はなかなか難しく、騒がしい子に目がいきましがちですが、自分自身かなり周囲を気にするタイプなこともあり、少しでも孤立気味になってしまうと落ち込み気味になってしまう子が寂しげな顔をしていたりして、なるべくお仕事を分ける様にしていたのですが、学年が上級学年の子だったせいか少しつまらなそうにしていたのが気がかりでした。子供達の好奇心は本当に様々で、出来上がった作品は個性豊かで、どの班も楽しいものが出来たのではないかと思います。全体を通し、開催までの準備へ労力や、子供達への配慮など今までの自分の範囲を大きく越え、本当に大変でしたが、子供達との関わりで私自身学ぶ事が多く、これからのWSを含め建築に対しての考えに対し、非常に多くの事を学ぶ機会となりました。また、今回を発展させ、また出来たらと私自身思いました。

**加藤悠**：私自身、今年の夏は子供向けのものづくりワークショップを企画したり、お祭りで子供向けの出展をしたりして沢山の子供たちと関わる機会が増えていたので、正直なところ少し慣れが生じている部分がありました。しかし、子供達に建築を楽しく知ってもらおうという目的がある点が、今回のワークショップでは重要であったと思います。難しい建築を楽しく一般の人に知ってもらうにはどのようにしたらいいだろうというのが、私が常日頃から考えていることです。さらに子供達に向けてというところが、頭を抱える点でした。準備期間中はチーム内で仕事を分散させることによって意思までも分散してしまったことが反省点でしたが、手作業の期間に入るとまるで子供のように手を動かすことを楽しむことができました。そして当日、私のチームでは可愛らしいことにとっても頑固な子供が多くて、最初は正二十面体は面倒くさいという子がいたり、男女で喧嘩し始めたりしていましたが、そのうちに皆でトラス構造について考えようとし始めていたことが、大変嬉しかったです。どのようにしたら支えられるか、どのようにしたら効率よくできるか、自ら考えることを楽しむという感覚を断片的にでもつかんでもらえたのではないかと思います。今回中田さんをはじめ、非常に多くの人たちに助けられ、一緒に楽しんでもらったことはよい記憶となりました。これからも志を忘れずに建築を学び、より多くの人に広めて行きたいと思います。ありがとうございました。

**今野未奈美**：参加してくれた子供たちと一緒に、「どんな形にしようか?」「この三角形の組み合わせだとグラグラしちゃうよ」「こっちとあっちで結べば強くなるかも!?!」と三角形の構造が強いことや、使い方を楽しく考えながら作ることが出来、最後に「またやりたい!」と言ってくれたことが、モノ・空間作ることに興味を持って欲しかった私にとって、実施して良かったと心から思いました。都市や建築は人間と常に一緒にあります。小さい子からお年寄りまで一般の方に、もっと街や空間の面白さ、工夫を知ってもらうことが、これからの都市や建築の発展に必ず繋がると考えていたので、短い時間で少数の方でしたが実際に考えを共有出来、さらに地域のお祭りの中に参加させて頂けたことで、周囲の大人の方へも見て頂ける機会を設けることが出来、本当によかったと思っています。また、WSに慣れていない私たちを、多くの方々が助けてくださり無事終了することが出来ました。感謝しています。ありがとうございました。

